

令和 8 年度

「運営に関する計画」

大阪市立焼野小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立焼野小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

本校児童は、令和7年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、自己肯定感に関する「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答は全国平均よりも2.3ポイント低い結果であった。自己肯定感を高めることで「自分の可能性を信じて努力をする」「自分で考えて選択できる」「自分を大切に思え、同時に相手を大切に思うことができる」「社会のために役立つ人間であろうする」などの意識を育てたい。また、いじめなどによって他者を傷つける事案を未然に防ぐためにも、他者を思いやる心や、他者から必要とされているという実感を高めることが大切であると考えます。

<令和8～11年度に取り組むべき課題>

- 全教職員でいじめの未然防止や早期発見・早期対応に努め、他人の気持ちを考え、全教育活動を通して助け合いや思いやりあふれる児童の育成に努める。
- 児童の活躍の場を積極的に設定するとともに、承認・賞賛の場を増やし児童の自己肯定感を高める。
- 児童に人と関わる喜びを味わわせ、豊かな人間関係を育むことができるよう、児童のあいさつを活性化させるとともに、異学年交流や縦割り班活動の充実を図る。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の全国学力・学習状況調査において、算数科は平均正答率が全国平均を上回ったものの、国語科・理科は下回っているが、他調査と合わせると学ぶ力は概ね備わっていると言える。児童質問紙では、学習に対して「好き」「楽しい」「課題を解決したい」といった前向きな姿勢をもっていることがうかがえる。学力分布は、二極化の傾向が見られ、児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行うことで、基礎・基本の定着と同時に、自ら学び考える力の育成を図る必要がある。また、国語科、算数科ともに、主に情報やデータを読み取り活用する力や、複数の条件をもとに記述する力に課題が見られる。

体力づくりについて、これまで運動能力向上に向けて取り組んできた。一定の成果が表れつつあるが、運動志向や運動経験、運動量の差が体力調査の結果に大きく影響を与えていることが明らかになった。学校外での児童の運動環境による影響が課題となっており「適度な運動」「調和のとれた食事」「十分な休養・睡眠」「心の健康の保持」など、基本的な生活習慣を身に付けるように啓発を続けている。

<令和8～11年度に取り組むべき課題>

- 「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を通して、児童が「わかった」「できた」という成就感や達成感を得られるよう、学習活動を計画する。また、学習形態を工夫し、児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行うことで、基礎・基本の定着と同時に自ら学び考える力の育成を図る。
- 体育行事や体育学習等を通じた基礎的運動能力を向上させるための取り組みを、年間を通して計画的に実施する。
- 健康に関する正しい知識や、よりよい生活習慣を身に付けるようにし、健康や体力を増進する力の育成を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末等ICT機器の活用について、授業での活用や家庭学習での利用をより活性化し、児童の学習を充実させていく。

また、様々な教育課題への対応が求められる中、教育活動を円滑に推進し、質の高い教育を提供するためには、教職員が児童一人一人に寄り添うための時間を確保するとともに、心身とも

に健康で生き生きと働くことができる環境づくりが必要である。そこで、教職員の働き方改革の視点で教育活動を見直し、教職員や保護者に過度な負担のないように教育活動を工夫していく。

＜令和 8 ～ 1 1 年度に取り組むべき課題＞

- 学習者用端末を積極的に活用し、個に応じた学びや協働的な学びの実現に向けた取組を実施する。また、I C T機器を活用することで児童の心の状態や日々の生活の状況を可視化し、児童理解を深め、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に取り組む。
- 様々な教育課題の対応を円滑に行うことができるよう、児童一人一人に寄り添うための時間の確保や、教職員の健康保持及び長時間勤務の解消に取り組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 1 1 年度の児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか。」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を 100%にする。
- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。
- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 97%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.4 ポイント向上させる。
- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.4 ポイント向上させる。
- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における「インターネットや生成 A I、S N S等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。
- 令和 1 1 年度の小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。
- 令和 1 1 年度の教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 22 時間以下とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 8 年度の児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか。」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を 100% (R7 数値なし)にする。
- 令和 8 年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上 (R7 数値なし)にする。
- 令和 8 年度の小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上 (R7 72.9%)にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 8 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。

- 令和8年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 令和8年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上(R7 87.5%)にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和8年度の小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%以上(R7 93.8%)にする。
- 令和8年度の小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上(R7 91.7%)にする。
- 令和8年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月24時間以下(R7 24:11)とする。

大阪市立焼野小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ①令和8年度の児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか。」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を100%(R7 数値なし)にする。 ②令和8年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上(R7 数値なし)にする。 ③令和8年度の小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上(R7 72.9%)にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現(児童虐待対応)】 ○児童虐待防止に関わる研修をおこない、児童虐待を発見したり、疑いがある際に、ためらうことなく対応をおこなう(通告含む)教員を養成する。	
指標① 「児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか。」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を100%(R7 数値なし)にする。 ② 児童虐待防止に関わる校内(オンライン)研修を年1回以上行う。また、いじめ・不登校対策委員会(ケース会議)を学期に2回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成(集団育成)】 ○授業や学校生活の中で児童が主体的に考え、判断する場面を大切にするとともに、児童一人一人が力を発揮し、そのよさを認め合える集団づくりをめざし、学校全体で取組む。	
指標① 令和8年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上(R7 数値なし)にする。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現(相談機能)】 ○情報端末による相談機能の活用の仕方を児童に周知・説明する場を設け、困りごとや不安がある時に活用できるように努める。	
指標① 令和8年度の小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上(R7 72.9%)にする。	

(様式2)

大阪市立焼野小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ①令和8年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。 ②令和8年度の小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より0.1ポイント向上させる。 ③令和8年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上(R7 87.5%)にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(授業力向上)】 ○児童が言語力や情報活用能力を身に付けることができるよう、実践的な研究・研修活動に取り組む。 ○主体的に学びあい、深めあう学習集団づくりを通して、児童一人一人が考えを広めたり深めたりできるよう指導を工夫し、実践する。 指標①令和8年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上(学力向上)】 ○全学年で日常的に「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を大切にした授業づくりに取り組むとともに、児童が「わかった」「できた」を実感できるよう学習活動や板書、教材・教具等を工夫する。 ○児童の学習状況を把握し、多様な学習形態を取り入れながら協働的な学習に日常的に取り組む。 指標①令和8年度の小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より0.1ポイント向上させる。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成(体力向上)】 ○かけ足、なわとび、鉄棒、シナプソロジー、サーキットトレーニングなど、基礎的運動能力を向上させるための取組について年間を通して計画的に実施する。また、体力テストのうち「50m走」「ソフトボール投げ」「立ち幅跳び」を全学年で実施する。 ○休み時間に運動場で積極的に外遊びするよう、日常的に声かけを行う。 指標①令和8年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上(R7 87.5%)にする。	

大阪市立焼野小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ①令和8年度の小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%以上(R7 93.8%)にする。 ②令和8年度の小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上(R7 91.7%)にする。 ③令和8年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月24時間以下(R7 24:11)とする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進(ICT機器の活用)】 ○学習者用端末を積極的に活用し、個に応じた学びや協働的な学びの実現に向けた取組を実施するとともに、ICT活用におけるモラル教育を推進する。	
指標① 令和8年度の小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%以上(R7 93.8%)にする。	
取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進(ICT機器を活用した学習)】 ○ICT機器を活用することで児童同士が意見交流をおこない、情報の集約や精選、活用できる授業展開を取り入れる。	
指標① 令和8年度の小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上(R7 91.7%)にする。	
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり(職員の健康)】 ○様々な教育課題の対応を円滑に行うことができるよう、児童一人一人に寄り添うための時間の確保や、教職員の健康保持及び長時間勤務の解消に取り組む。	
指標① 令和8年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月24時間以下(R7 24:11)とする。	